

University of Shizuoka

静岡県立大学

Guide Book 2025



School of Pharmaceutical Sciences / 薬学部 School of Food and Nutritional Sciences / 食品栄養科学部

School of International Relations / 国際関係学部 School of Management and Informatics / 経営情報学部 School of Nursing / 看護学部

Graduate School / 大学院 Junior College / 短期大学部

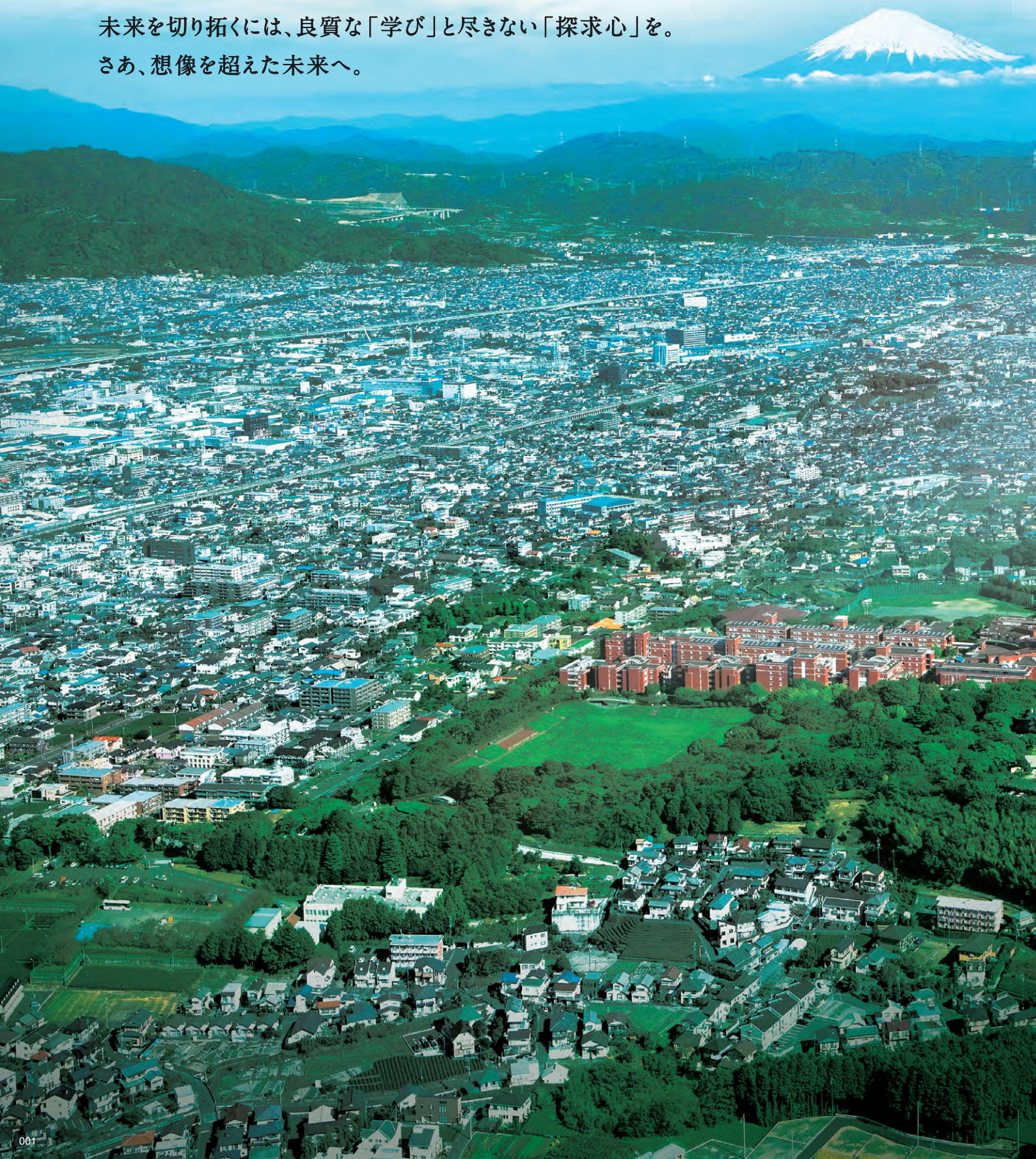
Spread your wings

はばたけ 地域に 世界に

より高く飛ぶには、より高い理想を。

未来を切り拓くには、良質な「学び」と尽きない「探求心」を。

さあ、想像を超えた未来へ。



Admission Policy アドミッションポリシー

地域社会や国際社会で活躍する人材を育成するため、
それぞれの学部および大学院においては次のような学生の入学を期待しています。

学 部

1. 高等学校教育で修得する必要がある基礎学力と英語力を有している
2. 教養科目と専門科目を自ら積極的に学び、活用できる向上心を有している
3. 大学の学びを未来に向かって生かそうとする高い志を有している

大 学 院

1. 専門性を磨き、自らの学問分野を生かして、地域社会や国際社会で貢献しようとする強い意志を有している
2. 論理的思考と英語力を積極的に活用し、情報の共有と発信を的確にする能力と総合的判断力を有している

UNIVERSITY OF SHIZUOKA 2025

■ FUTURE KEYWORD	03	■ LOCATION MAP	49
■ 学長メッセージ	05	■ CAMPUS STAGE	50
■ 理念・目標・沿革	06	■ CAMPUS LIFE キャンパスカレンダー	55
■ 組織概要	07	クラブ&サークル	56
■ 全学共通科目	08	県大生の日	57
■ Kendai TIMES	09	国際交流・留学情報	59
■ 地域・産学連携	11	■ 学生生活支援	61
■ 学部	13	■ キャリア支援・就職サポート	63
食品栄養科学部	19	■ 入学状況・入試情報	65
国際関係学部	25	■ 学生数	67
経営情報学部	31	■ アクセス	68
看護学部	37		
■ 大学院	43		
■ 短期大学部	48		



この場所から 歩み出す

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

FUTURE KEYWORD

あなたが触れてみたい未来は
何ですか？



薬学部

創薬と医療薬学の
スペシャリストを育成する

🔍 FUTURE KEYWORD

創薬/薬剤師/高度医療/医療薬学/生命科学/環境科学/
保健衛生/薬事行政/医薬品研究開発/臨床検査



P013

食品栄養科学部

食と健康の
フロントランナーを目指して

🔍 FUTURE KEYWORD

食品機能/バイオテクノロジー/食品開発/生命科学/疾病予防/
管理栄養士/SDGs/環境科学/環境計量士



P019

国際関係学部

グローバル化時代の
実践知を育む

🔍 FUTURE KEYWORD

公共政策/開発/共生社会/コミュニケーション/比較文化/
日本/アジア/ヨーロッパ/SDGs/地域研究/フィールドワーク



P025

経営情報学部

文系・理系の枠を超えて経営、総合政策、データサイエンス、
観光マネジメントを融合した問題解決力を身につける

🔍 FUTURE KEYWORD

経営/総合政策/データサイエンス/ビッグデータ/ SNS/観光マネジメント/
観光産業/自治体経営/イノベーション/ ICT/地域経済/マーケティング



P031

看護学部

健康で心ふれあう“安心社会”づくりを
支える看護職の育成

🔍 FUTURE KEYWORD

「ひと」に向き合う・豊かな人間性と倫理観/看護師/保健師/助産師/
特定行為/地域包括ケア/災害看護/国際保健・看護/看護学の探求



P037

〔 学 長 メ ッ セ ー ジ 〕

学 生 が 自 ら 学 習 す る 大 学

静岡県立大学 学長

今 井 康 之

IMAI Yasuyuki

静岡県立大学は、地域社会や国際社会で貢献できる学力と知力を醸成し、基礎力と応用力を活用して能動的に実践できる人材を育成するための教育の場を提供します。また、静岡県の最高学府としての自覚を持ち、独創性豊かで高い学術性を備え、国際的な評価に耐え得る研究を推進しています。

本学からは、雄大な富士山を望むことができます。さらに、晴れていて空気の澄んだ日は、草薙キャンパスの上方に位置する大講堂前のモニュメントから、独特の山容を誇る大無間山と小無間山が目に入ります。これらは、南アルプス深南部に位置する2,300 m ほどの標高の山ですが、上級者向けの登山コースとして知られています。

さて、大学がやるべきことは何でしょうか。高校などの中等教育までは、教えられたことができるようになることが学習目標だったでしょう。日本の大学進学率が上昇し、大学のユニバーサル化が進みつつある現在、大学での学習目標とは、学生自らが問題点を整理し、問題への答えあるいは解決に至るための方法を考え出し、それを用いて調査や研究を実行し、自分なりの意見を表明できるようにすることだと考えています。加えて、創造・蓄積した「知」を多様な人々と、対話によって共有することも重要な社会貢献です。

昨今、人工知能の性能が上がり、どのように活用して社会に役立てるのかということのみが語られています。しかし、人工知能の仕組みについて、専門家ではない人々が理解できるように伝えられているとは思えません。ChatGPT の発明者の一人が、人工知能に仕事を奪われない職種として、科学者と小説家を挙げている点も象徴的です。また、コンピュータや人工知能などで世界を牽引して来たアメリカの「シリコンバレー」でも、極めて多様な人材がそれぞれ役割を果たして来たことが分かっています。本学は、計画した通りの目標達成を超えて、より柔軟な思考ができるような人材を育て、「来て良かった」と感じてもらえる大学を目指したいと思います。

学生の皆さんが大学の学びを未来に向かって生かそうとする高い志を持って、大学生活を謳歌していただくことを願っています。



理念

- 静岡県立大学は、たゆみなく発展する大学を目指します
- 静岡県立大学は、卓越した教育と高い学術性を備えた研究を推進します
- 静岡県立大学は、学生生活の質（QOL）を重視した勉学環境を整備します
- 静岡県立大学は、大学の存在価値を向上させる経営体制を確立します
- 静岡県立大学は、地域社会と協働する広く県民に開かれた大学を目指します

静岡県立大学は、これらの理念に基づき、
教育・研究・地域貢献・国際交流において、
次の目標を掲げます。



目標

教育

学生を第一に考え、学生生活の質（QOL）の向上を図り、高度かつ秀逸できめ細やかな教育を提供することで、社会に貢献できる有為な人材を育成します

地域貢献

県民の負託に応え、県政や産業界との連携を図りながら、卓越した教育と高い学術性を備えた研究による成果を地域に還元します

静岡県立大学は、この目標を達成するため、
学術的・人的資源を最大限に活用した大学運営と
その体制の確立を目指します。



研究

静岡県の最高学府としての自覚を持ち、
独創性豊かで高い学術性を備え、国際
的な評価に耐え得る研究を推進します

国際交流

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、
また世界に情報発信することにより、
静岡県の国際交流の強力な推進力となります

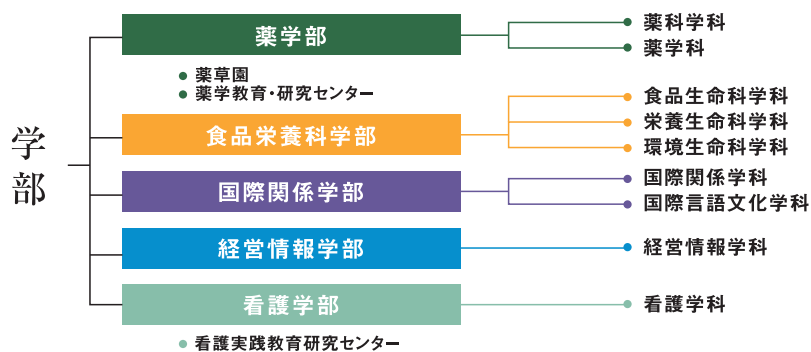
沿革

1983年 (昭和58年)	9月	県立大学問題協議会から県立3大学（静岡薬科大学・静岡女子大学・静岡女子短期大学）を改組・統合し、総合大学とする答申が出される
1986年 (昭和61年)	12月	文部大臣から静岡県立大学の設置を認可される
1987年 (昭和62年)	4月	開学 初代学長に内菌耕二が任命される
1988年 (昭和63年)	4月	大学院薬学研究科（博士前期・後期課程）を設置する
1989年 (平成元年)	3月	校舎が完成する
1991年 (平成3年)	4月	大学院生活健康科学研究科（修士課程）及び国際関係学研究科を設置する
1993年 (平成5年)	4月	第2代学長に星猛が任命される
1995年 (平成7年)	4月	大学院生活健康科学研究科（博士後期課程）を設置する（修士課程を博士前期課程とする）
1997年 (平成9年)	4月	看護学部及び短期大学部歯科衛生学科・社会福祉学科を設置する 環境科学研究所（大学附置）を設置する
	5月	創立10周年記念式典を開催する
1998年 (平成10年)	4月	大学院経営情報学研究科（修士課程）を設置する
1999年 (平成11年)	4月	第3代学長に廣部雅昭が任命される
2001年 (平成13年)	4月	大学院看護学研究科（修士課程）を設置する
2005年 (平成17年)	4月	第4代学長に西垣克が任命される
2006年 (平成18年)	3月	県議会2月定例会において、静岡県公立大学法人定款が議決される
	4月	薬学部を薬学科（6年制）と薬科学科（4年制）に改編する
	11月	創立20周年記念式典を開催する
2007年 (平成19年)	4月	静岡県公立大学法人が設置・管理する大学となる 初代理事長に鈴木雅近が任命される 食品栄養科学部の食品学科を食品生命科学科に、 栄養学科を栄養生命科学科にそれぞれ名称変更する
2009年 (平成21年)	3月	第5代学長に木苗直秀が任命される
2011年 (平成23年)	4月	第2代理事長に竹内宏が任命される 大学院経営情報学研究科を改編し、経営情報イノベーション研究科を設置する（博士後期課程も同時に設置）
2012年 (平成24年)	4月	第3代理事長に本原佑が任命される 大学院薬学研究科及び生活健康科学研究科を改編し、大学院薬食生命科学総合学府及び薬学研究院・食品栄養環境科学研究院を設置する
2014年 (平成26年)	3月	環境科学研究所を廃止する
2014年 (平成26年)	4月	食品栄養科学部に環境生命科学科を設置する
2015年 (平成27年)	4月	第6代学長に鬼頭宏が任命される
2016年 (平成28年)	4月	短期大学部にこども学科を設置する
	11月	創立30周年記念式典を開催する
2018年 (平成30年)	4月	第4代理事長に尾池和夫が任命される
2020年 (令和2年)	4月	大学院看護学研究科（博士後期課程）を設置する 大学院経営情報イノベーション研究科と大学院看護学研究科の修士課程を博士前期課程とする
2021年 (令和3年)	4月	理事長と学長を一体化し、第5代理事長及び第7代学長に尾池和夫が任命される
2024年 (令和6年)	4月	第6代理事長および第8代学長に今井康之が任命される



組織概要

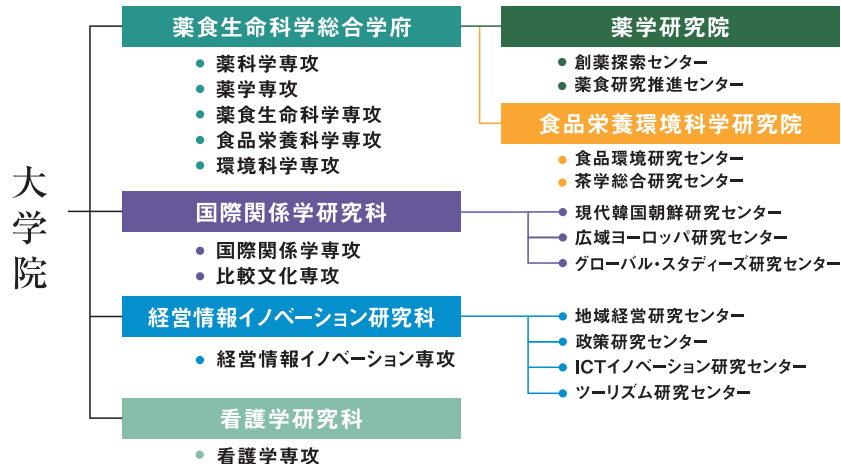
静岡県立大学



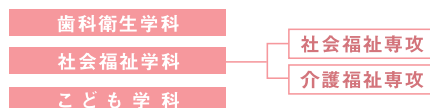
附属図書館
健康支援センター
情報センター
言語コミュニケーション研究センター
男女共同参画推進センター
グローバル地域センター
「ふじのくに」みらい共育センター

事務局

経営戦略部
総務部
教育研究推進部
学生部



静岡県立大学 短期大学部



附属図書館
事務局

2024年度 全学共通科目

※1 英語による科目 ※2 しずおか学 ※3 南大阪地域大学コンソーシアム科目

本学の授業科目は、学部ごとの専門教育と、教養教育である全学共通科目に分かれています。

全学共通科目では、社会人として広い知識と視野を持ち、激動する現代の社会に対応できる判断力や倫理観を養うことを目的としています。

履修は一部を除き選択制となっており、学生が自主的に科目を選択し、能動的に学習する姿勢を尊重しています。

第1部門(リテラシーとスタディ・スキル) コミュニケーション・表現・情報処理の3分野から成る外国語の入門等の科目

- ドイツ語入門
- フランス語入門
- スペイン語入門
- 中国語入門
- 日本語作文
- 中級日本語I
- 中級日本語II
- 情報検索実習
- 数理・データサイエンス入門
- ヒューマン・ケア
- TOEFL留学英語I
- TOEFL留学英語II
- TOEICビジネス基礎英語
- TOEICビジネス英語I
- TOEICビジネス英語II

第2部門(概論) 教養教育として必要な科目

- 自然科学概論
- 化学入門
- 生物学入門
- 薬剤発達史入門
- 物理学入門
- 環境科学入門
- 哲学入門
- 社会思想史入門
- 歴史学入門
- 宗教学入門
- 社会学入門
- 国際関係学入門
- 文化人類学入門
- 公共政策入門
- 心理学入門
- 生涯発達心理入門
- 知的財産管理入門

第3部門(現代教養) 各学部の専門分野トピックス

- 国際安全保障入門I
- 国際安全保障入門II
- 暮らしと化学
- 実用科学英語 基礎編
- 実用科学英語 応用編
- 基礎生命科学I^{※1}
- 基礎生命科学II^{※1}
- 現代日本文化入門^{※1}
- 経営分析入門^{※1}
- 英語で学ぶ日本語学I^{※1}
- 英語で学ぶ日本語学II^{※1}
- 言語の学習・習得I^{※1}
- 言語の学習・習得II^{※1}
- 財務会計入門^{※1}
- 静岡の健康長寿を支える取り組みと人々^{※2}
- 静岡の防災と医療^{※2}
- 静岡地域食材料^{※2}
- 茶学入門^{※2}
- ムセイオン静岡 - MUSEUMと文化^{※2}
- ムセイオン静岡 - 世界の文化遺産^{※2}
- ムセイオン静岡 - 舞台芸術^{※2}
- 静岡の市民活動^{※2}
- 歴史からみるしずおか学^{※2}
- 新聞でもっと静岡を知ろう^{※2}
- 企業経営者に学ぶ
静岡のビジネス最前線^{※2}
- SDGs概論^{※2}
- 静岡「知」各論—食品環境科学と
地域企業の観点から—^{※2}
- ふじのくにガストロノミーツーリズム:
観る・食べる・学ぶ^{※2}

総合科目

- ふじのくに学(富士山)^{※2}
- ふじのくに学(お茶)^{※2}
- ふじのくに学(観光学)^{※2}
- ふじのくに学(演劇論)^{※2}
- ふじのくに学(南アルプスの自然)^{※2}
- ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)^{※2}
- ふじのくに学(農林業)^{※2}
- ふじのくに学(森林生態系からの恵み)^{※2}
- ふじのくに学(伊豆の温泉と産業おこし)^{※2}
- ふじのくに学(魅力ある食と地域づくり)^{※2}
- ふじのくに学(西部地域の特性と産業)^{※2}
- 健康イノベーション教育プログラム^{※2}
- 世界からしずおかを見る しずおかから世界へ^{※2}
- キャリアデザイン概論
- 男女共同参画社会とジェンダー
- 人権を支える社会
- キャリアと社会^{※3}
- 高野山で学ぶキャリアとわたし^{※3}

身体運動科学^{※4}

- 身体運動科学A
 - 身体運動科学B
- ※4 身体運動科学は、薬学部では学部必修(基礎科目)、看護学部では学部選択(基礎科目)となっています。

PICK UP しずおか学

地域と連携しながら「静岡」の特性と魅力を学び、地域の発展に貢献する授業

「しずおか学」科目群では、静岡に特化した地域の文化や産業等を学び、地域を愛し、地域に貢献するマインドを醸成します。授業は講義(座学)と演習(フィールドワーク等)で構成され、地域を学び、地域において実践的な経験を積みます。

※ 2015年度入学者から、しずおか学は選択必修として卒業時まで2単位以上に修得することになっています。

「しずおか学」について詳しくは、次のページをご覧ください

THE Kendai *TIMES*

2025

地域を学んで未来を創る しずおか学 ～地域からグローバルへ～

急激な社会状況の変化の中、人口減少、少子・高齢化などさまざまな課題を抱える地域において、人材の育成は急務です。静岡県立大学は、2014年度から5年間、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)に採択され、地域と向き合ってきました。その後も、さまざまな地域課題に取り組み、地域貢献に努めています。

COC事業採択に伴い、静岡の産業や経済、歴史・文化など、地域を知り学ぶための全学共通科目「しずおか学」科目群を設置し、選択必修科目として、卒業までに2単位以上の習得を義務付け、地域課題解決に資する人材育成を進めています。

「しずおか学」の授業は、地元企業や自治体職員、地域で活躍するNPOや市民などの外部講師を招いた講義、地元企業や県内市町の訪問など、座学と演習(フィールドワーク等)から構成され、学生は実践的な経験を積むことができます。地域を学ぶことで、より深く地域課題を知り、主体的に課題解決に取り組む意識を高めます。



静岡県立大学コミュニティフェロー

「しずおか学」等を通じて地域に関する知識を習得したうえで、地域における活動への積極的な参加を通じて地域活動の技能を身につけた学生をコミュニティフェローとして認定します。コミュニティフェロー認定者のうち、地域貢献活動及び演習等において特に顕著な活動を行い、リーダーシップ等の優れた能力を持つ者に、特別表彰を授与します。2023年度までに延べ848人の学生が、コミュニティフェローの認定を受け、56人に特別表彰が授与されました。

しずおか学科目群(一部)

- 静岡の健康長寿を支える取り組みと人々
- 静岡地域食材学
- 企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線
- 歴史からみるしずおか学
- SDGs概論
- ムセイオン静岡
- 静岡の市民活動

PICKUP授業

茶学入門

静岡県は茶に関わる生産、飲料、加工食品の集積県です。試験研究機関や民間企業では、茶関連商品の研究・開発が活発に行われています。そんな茶どころ静岡県の学生として、茶の歴史や文化、生理機能、栽培・加工技術からマーケティングに至るまで、茶に関する広範な知識を学びます。茶業関係者や日本茶インストラクターなど、毎回各テーマに関する一流の専門家を招いて授業が行われます。



静岡の防災と医療



南海トラフ地震が想定され、その対策が急がれている静岡県内の防災と医療を推進する組織と、それらを支える専門職の役割と取り組みを紹介します。避難場所の準備、食糧支援の確保、PTSDや心のケア、ボランティア組織、防災派遣医療チームの連携などすべてを包括的に学びながら、防災と医療についての知識を深めます。自らの防災を考え、さらには地域の防災と医療にどのような貢献ができるかを考える科目です。

ふじのくに ガストロノミーツーリズム： 観る・食べる・学ぶ

ガストロノミーツーリズムは、「地域の食」を背景に、それを生んだ地域を理解し、楽しむことを目的としたツーリズムです。静岡県は全国トップクラスの439品目の農林水産物が生産され、富士山や伊豆半島、南アルプス、浜名湖など多彩な地域資源を持ち、各地に多種多様な歴史資源を持っています。本講義では、ガストロノミーツーリズムの概念、実践への理解を深め、静岡の資源を活用した静岡型のガストロノミーツーリズムの構築とその推進に寄与できる知識を深めます。





ACTION TOPICS

地域で活躍を広げる学生のパワー



学生広報大使の活動は
学生広報大使
公式Instagramで
見ることができます。

静岡県立大学 学生広報大使

本学の魅力を学生目線で伝えるために、2022年6月、在学生による「学生広報大使」を創設し、現在活動しています。学生広報大使は、学生が主体となって取材活動やSNSでの発信により学内外に向け本学をア

ピールしているほか、広報誌『はばたき』の作成など、広報の手伝いをしています。その他、学生広報大使発案のイベントとして、短期大学部生向けに草薙キャンパスの案内ツアーを行うなど積極的に活動しています。



学生有志がボランティアチーム「なまけもの」を結成

2023年に本学学生有志が、ボランティアチーム「なまけもの」を立ちあげました。

本団体は、学生が地域の人たちとボランティア活動を通して交流を深めるために活動しています。

「なまけもの」は小鹿と草薙の各キャンパス周辺で週1回の活動を行うほか、静岡駅周辺や海辺などの学外で月1回活動しています。キャンパス周辺の活動では、会社員や静岡大学の学生などの参加があり、学外活動においても、会社員や大学生、地域の

人、さらには高校生までが参加するなど、口コミによって回を重ねるごとに参加者が増えています。

また、2023年7月に開催された「スポGOMIワールドカップ静岡STAGE」では、本団体から男子学生3名、女子学生3名の有志が参加し、女子学生チームが3位、男子学生チームが優勝を果たし、全国大会へと進出しました。

つつじヶ丘 国際学生寮「富学寮」

キャンパス内のグローバル化促進のため、共同生活の空間の中で、それぞれの国の文化や歴史、習慣の違いなどに触れることにより、相互理解と国際交流の促進につながることを期待して、日本人学生と外国人留学生が混住する寮を整備し、2022年4月から運用を始めました。



寮内には、交流スペースを用意し、対面式キッチン、ラウンジを備えます。各国の料理を作りあって交流したり、お互いの言語を教えあったり、勉強を助け合ったりと、寮生同士の交流はもちろん、他の県大生や地域の方とも交流を楽しめる場を提供します。

なお、寮には管理人を置かない代わりに、入寮者の生活支援及び寮内外の交流促進に携わる学生「レジデント・アシスタント(RA)」を1名設置しています。

〈国際学生寮基本情報〉

施設名称	静岡県立大学つつじヶ丘国際学生寮
整備場所	静岡市清水区草薙
整備内容	昭和54年建築の教職員住宅を改修(リモデル)、個室4室のユニット×3(定員12人)、交流スペース(ラウンジ、共用キッチン)、ランドリールーム、シャワールーム
入寮者	本学正規生(県大、県大大学院、短大の正規生。研究生、科目等履修生などは含みません)及び外国人留学生(交換留学生を優先)
入寮期間	1年(RAは最長2年)
募集時期	RAは11月頃、一般入寮者は1月頃
入居時期	3月下旬

※つつじヶ丘国際学生寮の詳細は、静岡県立大学ホームページの「国際交流・留学」ページで確認してください。

〈国際学生寮Instagram〉

<https://www.instagram.com/fugakuryo/>



地域・産学連携

01 地域貢献・産学官連携 —「開かれた大学」として、地域の未来を拓く—

本学は、地域貢献活動と産学官連携活動を総合的に推進することで、地域社会との協働による共育を通して有為な人材を育成するとともに、学術研究の成果を広く地域社会に還元して社会の発展に寄与するため、2019年4月1日に「ふじのくに発イノベーション推進機構」として地域貢献及び産学連携の推進組織をリニューアルしました。組織体制としては、学長を議長とする地域貢献・産学官連携推進会議を審議機関とし、地域貢献事業の実施機関として「ふじのくに」みらい共育センターを、産学官連携事業の実施機関として産学連携推進本部を位置付けています。新たな機構により、これまで以上に、大学全体の文理融合研究を推進し、研究および共育の成果を社会に還元できる人材の育成や、地域貢献活動および産学官連携活動に取り組みます。

主な成果品 産学官が協力して多くの実績を残しています。

アメーラトマト(マーケティング研究)

最高品質の高糖度かつ、リコピン、ビタミン類、ギャバなどの機能性成分が多く含まれたトマト「アメーラ」「アメーラルピンス」のマーケティング研究を行い、販路拡大、ブランド力強化に貢献。
(株式会社サンファーマーズ、経営情報学部 岩崎邦彦 教授)



ムスリムおもてなしガイドブック

日本などの非イスラム圏で、地域の特色を生かしたハラール食品開発のためのサプライチェーンを例示し、ムスリム観光誘致の地域モデルを提唱。
(富士農商事株式会社、国際関係学部 富沢寿勇 特任教授)



静岡在来自然薯 むかご羊羹

とろろの原料となる自然薯の副産物「むかご」を使用した和菓子を開発。「むかご」に含まれるジオスゲニンを食品成分として摂取した場合、大腸がん予防作用等を示すことが動物実験で確認されている。
(有限会社丁子屋、食品栄養科学部 三好規之 准教授)



コリバクチン検査

大腸がん患者の7割が感染している「コリバクチン産生菌」を簡便に検出する方法を開発。受診者の負担が少なく、がんになりやすい腸内環境を持つハイリスクの人を見つけ出すことが可能。今後も、大腸がんの予防と早期発見への貢献が期待される。
(株式会社アデノプリバント、薬学部 渡辺賢二 教授)



機能性表示届出支援

(食品環境研究センター 若林敬二 特任教授)

システマティック・レビューは、届出する製品の機能性関与成分に、目的とする健康維持効果があるかを総合的に評価する方法です。本学ではシステマティック・レビューを実施し、機能性表示の届出を支援しています。

おいしい腸活流々茶

腸の動き(ぜん動運動)を活発にする成分であるイヌリンを含み、お通じの習慣を改善することが報告されている。
(サントリー食品インターナショナル株式会社)



クラウンメロン・アローマメロン

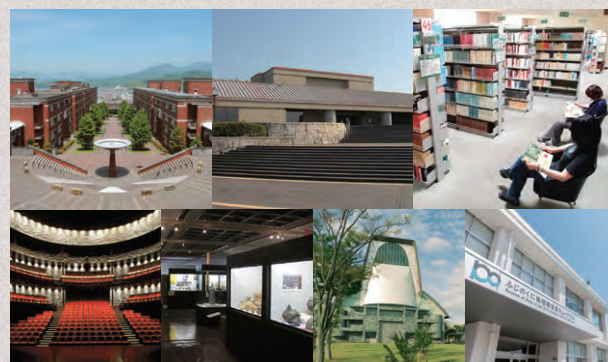
メロンについて、ストレス緩和作用のある機能性成分「GABA」に関する届出が受理されたのは、全国で初めてとなった。
(静岡県温室農業協同組合)



02 地域貢献活動 ムセイオン静岡 —大学の枠を超えて地域と連携するプロジェクト—

学術、芸術、歴史、文化、教育 7機関の連携による「文化の丘」の形成

「ムセイオン」とは、古代エジプトのアレクサンドリアに興った世界初の学問、教育、文化、芸術の総合施設のことで、ミュージアムの語源になっています。静岡市の草薙地域およびその周辺に位置する、静岡県立大学、静岡県立美術館、静岡県立中央図書館、静岡県舞台芸術センター(SPAC)、グランシップ(静岡県コンベンションアーツセンター)、ふじのくに地球環境史ミュージアムに、静岡県埋蔵文化財センターを加えた7機関が連携し、自主協働プログラムを通して、県民や地域住民に、文化・芸術・教育を学ぶ場を提供し、文化を発信する活動をしています。静岡県立大学は、教育・研究に加え、総括的な情報発信、文化交流の拠点として、各種講座やイベントを開催し、図書館を一般に開放しています。



教 育

「しずおか学」の開講

静岡の防災と医療、茶学入門、
SDGs概論、ムセイオン静岡 など

コミュニティ・ワーク力を
持った人材の育成

コミュニティフェローの称号認定
・ 特別表彰

研 究

地域課題にマッチングした
地域志向研究の重点化

- ・ 「健康づくり」と「地域づくり」の2つのワーキンググループを中心とした研究
- ・ 学部を横断した学生による研究など

社 会 貢 献

健康長寿社会を支える
拠点形成と人材育成

- ・ 「健康長寿フェロー」、
「地域みらいづくりフェロー」の
称号授与(社会人フェロー)
- ・ 静岡市地域福祉共生センター
「みなくる」共生事業受託

COC事業は、「健康寿命の延伸」および「人口流出対策と雇用創出」が緊急課題である連携地域において、持続可能な健康長寿社会づくりの担い手を育成する事業です。この事業の特色は、健康長寿科学拠点として全国有数の実績を誇る本学の“強み”を教育に生かし、超高齢社会における地域課題を解決するための先進的大学モデルを構築したことにあります。

■ 地域志向の人材育成の静岡県立大学モデル(図式)【通称：静岡県大モデル】

モデルの特徴

- ・ 内発的動機付け
- ・ 複線型育成ルート
- ・ 国際的にも活躍できる能力
- ・ 教員の専門知の活用
- ・ 人材の地域内循環

